ガイドの立場から見た黒岳バイオトイレについて

池田しのぶ（美瑛・白金ネイチャークラブ）

１．はじめに

黒岳石室トイレは層雲峡ロープウェーを利用し、日帰り登山から本格的な縦走まで楽しめるコース上に設置されている。大雪山の山岳トイレの中でも登山客の利用頻度が非常に高いと考えられる。H15 年秋に老朽化したトイレが取り壊され、バイオトイレが新設された。夏・秋を中心に利用する機会が多いガイドの立場から、「利用者へのマナーの呼びかけ」「利用してみての印象・意見」「今後のバイオトイレに期待すること」「ガイドの役割」等についてを述べたい。

２．バイオトイレ建設以前の黒岳石室トイレの状況

〇利用者へのマナーの呼びかけ

・入山前は必ずトイレに行ってください。（山中でトイレできる場所は限られています。）
・石室トイレではトイレットペーパーの分別を行っています。ペーパーは便層に落とさず、回収ボックスへ分別または、持ち帰りをしてください。
・トイレ以外では携帯トイレを使用してください。

〇旧黒岳石室トイレの印象

・構造物―建物の老朽化が進んでいた。夏になると大量にハエが発生する状況。
・便層内－便層の深さが浅いため、汚物が見えていた。ハイシーズンには嵩が増す。
・利用マナー――し尿以外の生理用品、ゴミなども捨てられている現状があり、利用者のマナーがよいとは言えなかった。
・利用者の状況―ハイシーズンには混雑していた。トイレの老朽化が進んでいたとはいえ、縦走路にはトイレの設備がないため、主な縦走ツアーではほとんどの参加者で黒岳石室のトイレを必ず利用していた。
・維持管理―老朽化は進んでいながらも、黒岳石室管理人による清掃が行き届いていた。トイレットペーパーの持ち帰りと分別の推進（便層に落とさず、回収ボックスへ分別）を行っていた。
・処理―汲み取り後、石室裏に埋め立て。
・全体の印象―悪臭があり、見た目にも美しくなかった。利用マナーや処理方法にも問題があったため、利用する側としても使っていて心地よくはなかった。

３．H15 新設　黒岳石室バイオトイレ

〇利用者に対するマナーの呼びかけ

・　入山前は必ずトイレに行ってください。
・　使用方法に従い、前に１０回後に２０回ペダルを漕いでください。
・　トイレットペーパーの分別を行っています。ペーパーは便層に落とさず、回収ボックスに分別または、持ち帰りをしてください。（※分別を行っていた時期のみ）
・トイレ以外では携帯トイレを使用してください。

○黒岳バイオトイレの印象

・構造物―ログハウスの立派な建物で外観・内装ともに美しい。
・便層内―分解が追いつかず、液状に近い状態になっていた。
・利用マナー――ペダル漕ぎはものめずらしさで、楽しんで利用する人が多い。意識の高い人は使用法に忠実に行っている。混雑を気にして回数を漕いでいない現状もある。便座に座るタイプのものであるが、座らずに足を乗せて利用する人もいて、土がついていることがある。ゴミ等が混入している様子は見受けられなかった。
・利用状況－トイレは４基のみのため、夏山・秋山のハイシーズン、ツアーの縦走の出発時間が重なると、行列ができる。ペダル漕ぎで時間がかかるため、混雑する。
・協力金―ツアーの参加者はほぼ全員払う傾向がある。協力金は強制ではないが、本州の山では使用料を徴収しているので快く払っているように見受けられる。
・維持管理―石室管理人による清掃が行き届いている。分解がうまくいっておらず、システムの改善が求められる。
・処理―オガクズの汲み取り・交換・運搬。
・全体の印象―便座タイプは街のトイレ以上に衛生面で抵抗を感じる人が多い。正常に分解がされていないため、悪臭が漂う。例え全ての利用者が使用法通りに使用したとしても、きちんと分解されるのかが疑問ある。旧黒岳トイレではし尿の埋め立てという過去があるので、バイオトイレになり、山に汚物を垂れ流しにしていないという心地よさがある。

４．今後、バイオトイレや山のトイレの管理に期待すること

・利用頻度の高さや寒冷な山岳地帯という環境の問題から、現在のバイオトイレは正常に稼動していないようである。今後システムの改善が求められる。
・協力金ではなく利用者から使用料を徴収し、徹底した維持管理が求められる。

５．ガイドの役割

・大雪山のし尿問題の現状を伝える。
・利用者一人一人に正しい利用マナーを使用前にレクチャーする。
・バイオトイレが山岳環境においてどんなメリットがあるか、また維持管理がどのように行われているか等の正しい情報を利用者に伝える。
・協力金の協力を呼びかける。